行方市学力向上授業研究会　研究報告

1　研究の方針

玉造小学校では，重点教科である算数の授業改善を通し，転移による教職員としての資質・能力の向上を図り，全教科における教師の指導力向上を目指している。そして，算数科の研究で得られた成果を，全教科の指導に取り入れていく。
「行方市学力向上研究会の目的」と，「玉造小学校　グランドデザイン」及び，児童の実態を踏まえ，研究主題を「既習事項を活用した思考力・判断力・表現力等を高める算数科指導の在り方　−評価からの授業改善を通して−」と設定した。

行方市学力向上研究会の目的

ねらい
・基礎的・基本的な知識技能の習得

・知識・技能を活用して自ら考え，判断し，表現する力を身に付ける

手立て
・全教科における評価からの授業改善

・指導と評価の一体化を図り主体的・対話的で深い学びのある授業を実践

令和4年度　研究主題

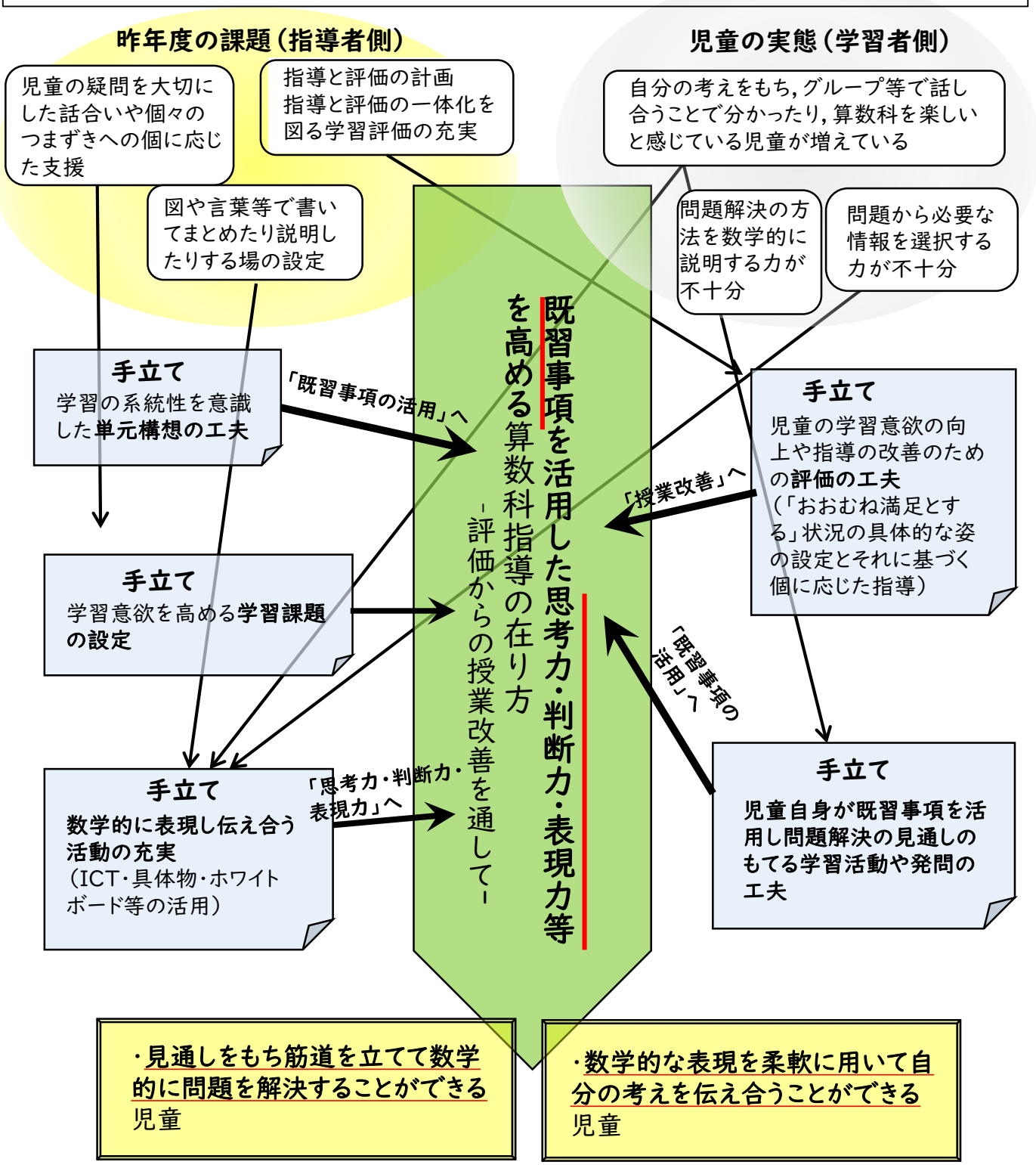
既習事項を活用した思考力・判断力・表現力等を高める算数科指導の在り方
−評価からの授業改善を通して−

玉造小学校　グランドデザイン

・重点教科を通しての授業改善（思考力・判断力・表現力等の育成）
（算数）
（転移による教職員としての資質・能力の向上）
・主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善

2　研究の構想

令和2年度の授業研究の結果，玉造小学校では，以下の図のような「指導者側の課題」と「児童の実態」があることが分かった。そこで，令和3年度は，「評価からの授業改善」を手立ての中心とし，ねらいを達成するための具体的な5つの手立てを講じて，身に付けさせたい資質・能力を育成する。



３　研究の計画

県の重点

時代の変化に対応し，自ら考え，自ら行動し，解決できる子供の育成

「読解力」と「論理的思考力」の育成

研究主題

既習事項を活用した思考力･判断力･表現力等を高める算数科指導の在り方
－評価からの授業改善を通して－

目指す児童生徒の姿

・見通しをもち筋道を立てて数学的に問題を解決することができる。
・数学的な表現を柔軟に用いて表現し伝え合うことができる。

児童生徒の実態

・自分の考えをもち，グループ等で話し合うことで分かったり，算数科を楽しいと感じたりする児童が増えている。
・問題から必要な情報を読み取り，既習事項を活用する力が不十分である。
・問題解決の方法を数学的に説明する力が不十分である。

主題にせまるための手立て

【指導と評価計画の工夫】
・学習の系統性を意識した単元構想の工夫
・児童の学習意欲の向上や指導の改善のための評価の工夫
（「おおむね満足とする」状況の具体的な姿の設定とそれに基づく個に応じた指導）
【学習活動の工夫】
・学習意欲を高める学習課題の設定
・児童自身が既習事項を活用し，問題解決の見通しのもてる学習活動や発問の工夫
・数学的に表現し伝え合う活動の充実
（ＩＣＴ・具体物・ホワイトボード等の活用）

検証方法

・授業における児童の発言内容の分析（学級全体・抽出児童）
・児童のノートや振り返り内容の分析（学級全体・抽出児童）
・県学力診断のためのテストや全国学力・学習状況調査の問題の解答内容と誤答分析

4　研究の実際

【学習の系統性を意識した単元構想の工夫・指導の改善のための評価の工夫】
・学習の系統性を意識して単元構想を工夫したり，「おおむね満足とする」状況の具体的な姿を設定したりすることにより，授業前につまずきを想定して具体的な手立てを準備して個に応じた指導を行ったことが，児童の問題解決力の向上につながった。

【学習意欲を高める学習問題の設定】
・単元の学習問題を日常生活と関連させて設定（6年「データをもとにして生活を見直そう」等）したことにより，児童が自分ごととして課題を捉え，学習意欲を高めることにつながった。
・ICT機器を使い，アニメーションを活用して問題を提示したことにより，児童の興味・関心を高めることができた。

【児童自身が既習事項を活用し問題解決の見通しのもてる学習活動や発問の工夫】
・導入時に，既習事項を振り返る機会を設けたことにより，児童が問題解決の見通しをもつことができた。
・前時までに学習したことを児童用タブレットに保存したり，学習コーナーに掲示したりしたことにより，児童が必要に応じて振り返りながら，既習事項を問題解決に生かすことができた。

【数学的に表現し伝え合う活動の工夫】
・ペアや小グループで伝え合う活動では，具体物やノート，ICT機器等を使い，自分の考えを可視化したことにより，話合いが活性化し，数学的に表現する力の向上につながった。

成果と課題

【成果】
・学習の系統性を意識して単元構想を工夫したり，指導改善のための評価を工夫したりした結果，児童のつまずきを想定した具体的な手立てを準備して個に応じた指導を行うことができた。
・学習意欲を高める学習課題の設定をしたり，児童自身が既習事項を活用し，問題解決の見通しがもてる学習活動や発問の工夫をしたりした結果，話合いにおいて前時の学習内容をもとにして発言する姿が見られるなど，筋道を立てて数学的に問題を解決する力を高めることができた。
・ICT機器等や具体物を使い，数学的に表現し伝え合う活動を充実させた結果，ノートに図や式，言葉等を用いて考えをまとめる姿が見られるなど，数学的な表現を柔軟に用いて表現し伝え合う力を高めることができた。
【課題】
・児童の思考を更に促すために，課題提示を工夫したり教師の発問や説明する内容を吟味したりする必要がある。
・児童の思考力，判断力，表現力等を更に高めるために，課題に合った適切な学習形態やタブレットの効果的な活用方法について追究する。

指導助言の内容と今後の展望

【指導助言の内容】
・課題の提示や教師の発問は，児童の思考の流れに沿うことが大切である。
・45分の授業で，毎時間ペア学習やグループ学習を行うことは難しい。単元全体を考えて，練り上げを中心にしたり，ペア学習を中心にしたりするなど，重点化するという手立てもある。児童が「ん？」と思う学習問題を設定することで，「話したい。」「聞きたい。」という気持ちが生まれる。
【今後の展望】
・校内研修の工夫改善を図り，課題の提示や教師の発問の仕方について研修し，児童が主体的に学ぶことができる授業づくりを推進する。
・学習のねらいを教師が明確にもち，児童の思考力，判断力，表現力等を高められる授業づくりを推進するとともに，評価からの授業改善を図る。